

「艱難辛苦、本高生を玉にす」

校 長 檉尾 尚樹

新型コロナウイルスの感染拡大は社会の仕組みを、人間生活を、そして学校生活も大きく変えてしまいました。この様な状況で、玲瓏祭を今年も開催出来ることに感謝したいと思います。

今年のテーマは「^{メモリー} 瓏心 ～心に残る1日を～」です。これまで多くの保護者や市民の皆様にご来校いただき、2日間にわたって開催してきた玲瓏祭でしたが、今年は感染拡大のリスクを最小限にし、校内だけの新しい玲瓏祭となりました。当たり前前に出来てきたことが出来なくなった時、前に進むためには皆が知恵を出し合わなければなりません。今年は多くの制約がある中、本高生徒と職員が何度も協議を重ね、様々な困難を克服し、今出来る最高の「祭」を考えました。

「艱難辛苦、汝を玉にす」私の好きな言葉です。人は苦難や失敗を乗り越え強くなります。この玲瓏祭の開催に向けた様々な工夫や頑張りは必ず未来の財産となります。生徒諸君がこれからの人生で出会うであろう様々な困難を乗り越える力となるはずです。

「瓏」の字は玉がふれ合い美しい音を奏でることを意味します。全ての本高生がそれぞれの個性を出し合い、輝き、一生心に残る思い出の一日になることを願っています。